

JELA NEWS

ジェラニュース 第58号

2022年8月15日 発行

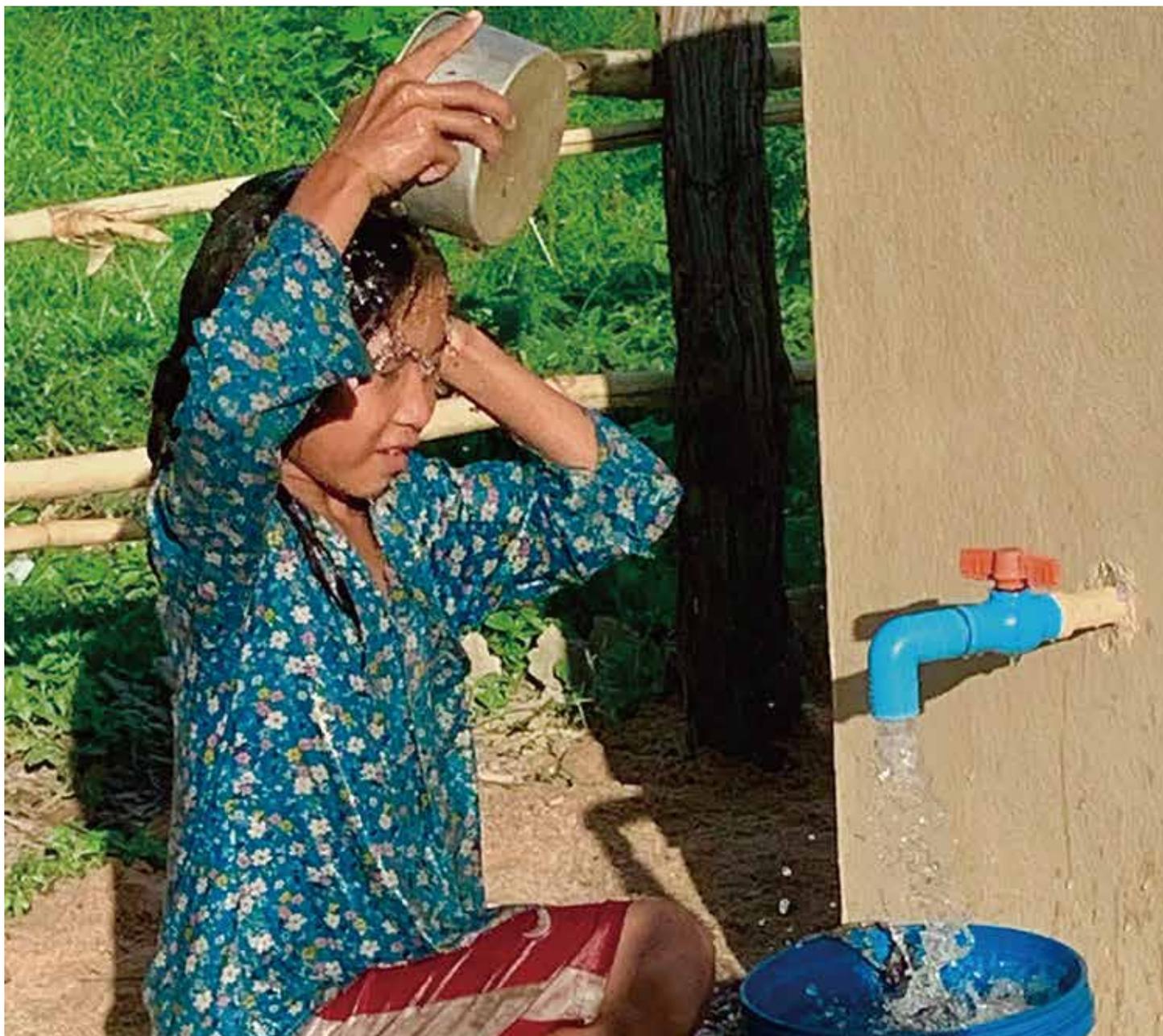
発行責任者 渡辺 薫

一般財団法人 JELA 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-20-26 TEL.03-3447-1521 FAX.03-3447-1523 jela@jela.or.jp www.jela.or.jp

難民支援事業 / 世界の子ども支援事業 / 奉仕者育成事業 / 緊急災害支援事業

私たちは、キリストの愛をもって、日本と世界の助けを必要とする人びとに仕えます

お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渇いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。(マタイによる福音書25章35～36、40節)



カンボジアに新しい給水システムが完成!

CONTENTS	世界の子ども支援	JELAとODAの連携、カンボジアで給水システム完成 (P2~3) / パナソニックHDのソーラーランタン、カンボジアの貧困地域に配布 (P5) / 世界の子ども支援チャリティコンサート2022、首都圏3会場で実施へ (P5)
	難民支援	「JELA様のご協力に感謝」市川 杏 (P4~5)
	奉仕者育成	2023年カンボジア・ワークキャンプ募集開始 (P4) / リラ・プレカリア「詩編との出会い」動画公開のお知らせ (P7)
	その他の記事	新しい短期宣教師のご紹介 (P6) / JELAニュース・ブログのご案内 (P6) / ウクライナの平和のために祈る会 (P7) / JELAサポーター募集 (P8) / 川柳ひろば (P8) / 支援者一覧 (P8) / 編集後記 (P8)



JELAとODA（政府開発援助）の連携 カンボジアで給水システム完成！ 「水は神様が創造した美しい被造物」

カンボジア・ポーサット州レアン・クバーウ村に2021年3月、約250世帯の生活を潤す給水施設が完成しました。これは、JELAの協力のもと、JELAの現地パートナー団体Life With Dignity（＝LWD、「尊厳ある生活」の意）が、外務省の「草の根・人間の安全保障無償資金協力」によって103,885ドル（約1,200万円）の支援を受けて建設したものです。コロナ禍の影響で、JELA職員による完成視察や除幕式の開催が延期されてきましたが、ついに2022年3月25日に晴れて除幕式の日を迎えることができました。外務省・在カンボジア日本国大使館からは担当官2名、JELAからはローウェル・グリテベック理事と渡辺薫事務局長の2名が除幕式に参列しました。

LWDは、カンボジアの農村部に広がる貧困と子どもの低就学率を解消することを目的として社会に仕える、カンボジア人スタッフを中心としたキリスト教主義に基づく団体です。

近年、カンボジアの都市部は外国資本の流入がすさまじく、急速な発展が進んでいますが、農村部ではいまだに



レアン・クバーウ村

電気を含む生活インフラが整備されていない地域が大部分を占めています。小学校以前の未就学年齢の子どものためのプレスクールも、仮に毎年10棟を建設したとしても、全国の必要を満たすまでに今後数十年を要すると言われています。LWDはカンボジアの農村部に毎年5棟のプレスクールを建設することを目標としています。2012年以降10年間に渡って、JELAはそのうちの1棟をLWDと協働して建設しています。2022年現在建設中のプレスクールは、JELAにとって11棟目になります。

プレスクール建設に加え、JELAは子どもたちを取りまく生活環境も重要視し、改善に取り組んでいます。

2014年には、そのために捧げられた多額の寄付のもと、LWDや他の国際NGOと協働して第1回の給水施設プロジェクトを完了しました。給水施設の建設は、子どもを含む多くの人々の生活を劇的に変えるものですが、同時に大きな支出となります。第2回の給水施設プロジェクト実施にあたり、JELAはLWDを在カンボジア日本国大使館の「草の根・人間の安全保障無償資金協力」に繋げるために、現地視察や日本大使館との折衝に尽力しました。日本の援助によって建設される給水施設の管理が、村の自治組織によって持続可能なものとなることがプロジェクトの成功のカギであったため、JELAとLWDの現地調査は約2年間に渡りました。

その中でプロジェクト実施場所選ばれたのが、ポーサット州にあるレアン・クバーウ村です。人口約1,100人、約250世帯が生活する村で、約200人の児童がいます。給水施設ができるまでは、村の人々は水業者から浄水前の清潔でない水を月25ドルも払って購入しなければならず、家計を圧迫するばかりか、煮沸が十分でない



給水ポイントを視察するプロジェクトメンバー

まま飲用した児童が深刻な下痢を起こすといった問題にもしばしば悩まされていました。今回の計画は、村内7カ所に給水スポット（1カ所あたり20～30家族が共用）を設置し、煮沸なしで飲用できる水を蛇口に直接供給するというものでした。新型コロナウイルスの影響下にあっても工事は着々と進められ、着想から3年目の2021年3月について給水施設が完成しました。長年に渡り切望された給水施設の完成の日、蛇口から勢いよく流れ出る透明の美しい水に村の人々は歓喜の声を上げたことでしょう。完成から1年後、村で生活する人々にとって給水施設は生活の一部になっていても不思議ではないのに、その喜びは新鮮なままであるということ、除幕式に集った人々の笑顔が雄弁に語っていました。

「水は神様が創造した美しい被造物です。水は私たちの生活を変えます。それゆえに私たちは神様をほめたたえましょう」。除幕式に出席した村民約

200名に向けて、JELAのローウェル・グリテベック理事はそう語りました。



除幕式で挨拶をするグリテベック理事

村の人々へのインタビューでは、皆一様に日常生活の中に良質な水があることの喜びを表していました。水道の蛇口をひねればすぐに安全な水が流れ出ることは、生活インフラが完璧に整備されている日本では「あたりまえ」のことになっていません。水の価値や、その恩恵にあずかることの喜びを、支援する側である私たちこそが再確認させられるような式典となりました。



完成した給水施設



除幕式に招待されたプロジェクト関係者

レアン・クバーウ村は、カンボジアの首都プノンペンから車で6時間ほどの場所に位置する村で、都市部との比較において経済・教育・衛生などの面で大きな格差を認めない地域でしたが、今回の給水施設プロジェクトによって村への道路が整備されたことで、人や物の新たな流れが生まれたり、村への移住希望者が急増したりするなど、水の供給のみにとどまらない変化が村にもたらされました。

JELAは、2022～23年にかけて、今回完成した給水スポットから各家庭に水道を引くパイプライン設置のプロジェクトに着手します。これによって、村の人々が自立して給水施設と水道を自分たちの水源として持続的に管理することができるようになります。このパイプラインの設置について、JELAは2022年度と2023年度で約400万円を予算しています。パイプライン設置後のメーターの管理やパイプの維持は、村の人々が自治組織を通して自費で行うこととしているので、持続可能な運営を実現するための「Exit Plan（支援の完了時期を明確化すること）」の観点においても、今回の給水施設プロジェクトは模範的な支援事例となりました。また、給水スポットの1つは小学校に近く、今後は校内にトイレや手洗い場などを設置することで、児童にとって衛生的な環境が整備されることが期待されています。JELAの世界の子ども支援は「子どもを取りまく生活環境の改善」を使命としており、遠回りであっても、村全体の生活改善などの包括的な取り組みが必要であることを実感しています。今後もJELAは、LWDと協働してカンボジアの子どもたちの生活改善のために取り組んでまいります。皆さまのご支援をよろしくお願いいたします。



除幕式に集まった人々



お待たせしました！ カンボジア・ワークキャンプ2023の募集を開始します

この夏、JELAはついに2023年カンボジア・ワークキャンプの募集を開始します。本キャンプは、実に3年ぶりの開催となる予定です。カンボジアの地で、ボランティアワークを通じて汗を流し、世界遺産を訪れて歴史や文化について学びませんか？ 皆様のご応募をお待ちしています。

※感染症の拡大等によりワークキャンプの実施が困難になった場合は、催行を中止する可能性がありますことをご了承ください。



カンボジア・ワークキャンプ2023 募集要項 (抜粋)

1. 日程

2023年2月13日(月)～23日(木)
11日間 (予定)

2. 対象

キャンプ開始時点で18歳以上の心身ともに健康な方 (高校生不可)

3. 募集人数

5～10名程度 (上限に達し次第申し込みを締め切ります)

4. 内容

JELAの現地のパートナー団体の活動支援と交流、学校校舎修復や設備設置、キリング・フィールド等の歴史的遺産や博物館訪問など。

5. 参加費

15万円
(保険費用など別途自己負担あり)

6. 参加申込方法・締切

JELAのホームページで募集要項の完全版をご参照のうえ、申込書に必要事項を記入し、所定の宛先までご郵送ください。
応募締切＝2022年11月30日(水) 必着

7. 参加者説明会日時 (予定)

2022年12月10日(土)
13:00～17:00
(参加が決定した方には必ずご参加いただきます)

8. お問い合わせ先

キャンプに関するご質問がありましたら、以下にご連絡ください。
TEL: 03-3447-1521
FAX: 03-3447-1523
メール: jela@jela.or.jp

参加申込方法、キャンプ参加にあたっての注意事項を含む、募集要項の完全版 (ご応募の前に必ずご確認ください) は、JELAのホームページからご覧いただけます。

<https://www.jela.or.jp/>
または「JELA」でWeb検索

パナソニックHD様から1050台のソーラーランタン カンボジアの貧困家庭に希望の「光」が届く！

JELAの世界の子ども支援事業のカンボジア支援のために、パナソニックホールディングス株式会社様 (以下「パナソニックHD」) から1,050台のソーラーランタンのご寄付をいただきました。

ソーラーランタンは、4月末にJELAの現地パートナー団体、Life with Dignity (=LWD、意味「尊厳ある生活」) を通して、プルサット州にある4つの村の子どものいる貧困家庭に400台、バッタンバン州の8つの村の子どものいる貧

困家庭に650台が無償配布されました。いずれの村もパナソニックHDが無電化地域に指定する地域で、夜間の光源は、まさに希望の「光」といえます。

村民の皆さんからは、さっそく次のような感謝の声が寄せられています。

「小学校に通っています。夜に家で本を読むことができるようになりました。おばあちゃんに読んで聞かせています」

「ソーラーランタンのおかげで、夕食をとるのがより快適になりました」



家で本を読むことができるようになりました。おばあちゃんに読んで聞かせています



「夕食をとるのがより快適になりました」



「母親と従姉妹のために本を読んであげることができるようになりました」



「夜でも勉強ができるようになりました」

チャリティコンサート 今秋再開します♪

全国の教会等を会場に16シリーズに渡って開催されてきた「世界の子ども支援チャリティコンサート」(主催＝JELA/日本福音ルーテル教会 世界宣教委員会)。コロナ禍により2019年を最後に中断を余儀なくされましたが、ついに今年の秋、3年ぶりに再開します。

開催概要 (予定) は右記のとおりです。コンサートは入場無料で、当日席上で寄付金を募ります。頂いたご寄付はJELAの「世界の子ども支援事業」のために用いさせていただきます。

その他詳細は、追ってJELAのブログ・SNS等でお知らせしてまいりますので、楽しみにお待ちください。
※社会情勢等により開催を中止する場合があります。ご了承ください。

第17回 世界の子ども支援チャリティコンサート

出演：真野 譚子 (ヴァイオリン)
前田 勝則 (ピアノ)

①10月30日(日) 午後3時

場所：日本福音ルーテル市ヶ谷教会

②11月26日(土) 午後2時

場所：日本福音ルーテルむさしの教会
ほか、JELAミッションセンター (東京都渋谷区) でのコンサート (日時・出演者未定) を計画しています。

難民支援事業

アフガニスタン家族の 来日支援、ふたたび

JELAの難民シェルター「JELA (ジェラ) ハウス」において、政情不安が続くアフガニスタンから逃れて来日したアフガニスタン人家族の短期滞在を支援しました。アフガニスタン人家族の支援は今年に入って2件目となります。今回、ご家族の国外退避を支援し来日に尽力された認定NPO法人REALsのプログラム・オフィサー、市川杏さんにご寄稿いただきました。

JELA様のご協力に感謝

市川 杏

昨年8月の首都カブール陥落以降、アフガニスタンでは多くの人々が命の危機にさらされ、安全な生活を確保すべく模索する状況が続いています。タリバンによる旧政府関係者、女性活動家、援助関係者、法曹関係者、アーティストなどに対する脅迫、拉致、暴力、殺害が多発しており、REALsでは、そうした危機的な状況にある方々の退避・保護支



市川 杏さん

援を行っています。

このたび、第57号にご寄稿された宮原様にご紹介いただき、JELA様にはREALsが退避を実現させたアフガニスタン人一家7名のJELAハウス滞在をご快諾いただきました。REALsがこの一家から退避の要請を受け取った際、一家はタリバンによる弾圧により命を狙われ、職を失い、学校も続けられず、家具を売ったお金で食料をなんとか買い、病院で治療も受けられない、そんな生活を送っていました。その後、幾度の危機に直面しながらもアフガニスタンを出国、日本に到着し、長い旅路の末たどり着いたJELAハウス。一軒家を丸々お貸しいただき、家族だけの空間に落

ち着いた表情を見せていました。

一番下のお子さんは5歳。疲労や緊張の見て取れる10代半ばのお姉さん、お兄さんを前に、その無邪気さが印象的でした。近所の公園で遊んでいるとき、「タリバンがいなくて嬉しかった」ともらした一言に、これまでの怯えながら過ごしていたという生活が垣間見え、子どもたちの抱えてきたものの大きさを感じました。タリバンに監視され、生きるために逃げなければいけなかった状況に、子どもたちの精神面への影響はわかり知れません。日本に入国して数か月経ち、今では子どもたちも学校に通いはじめ、笑顔が戻ってきたと聞きほっとするばかりです。

REALsに寄せられるひとつひとつの要請に目を通し続けること10か月、未だにどきっとしながらひとりひとりの言葉を受け止めています。出国から第三国への移動、査証の取得、そして定住まで、多くの要件をクリアしなければならぬことも見えてきました。やっとの思いで命の危機を逃れても、まるっきり違う環境で新たに生活を始めるを得ない事実が途方に暮れることもあるでしょう。そこでJELA様をはじめ、様々な方面から支援の手をつなぎ、避難民の方や退避してきた方を支えていくことの必要性を強く感じます。ご協力いただいたJELAの皆さまには心より感謝申し上げますとともに、今

後もこうしたご支援を続けていかれることに意義を感じます。

REALsは、アフガニスタンで命の危険にさらされている人々への退避・保護支援とともに、困窮した家族が食料危機を乗り切るための食料配布支援を行っています。シリア、南スーダンなど他の地域での争い予防の取り組みも行っています。REALsに、皆さまのご支援をよろしく願いいたします。

REALs
ホームページ
<https://reals.org>



待望の短期宣教師 (J3) が来日！ 東京と熊本で奉仕

JELAは、アメリカ福音ルーテル教会 (ELCA) と日本福音ルーテル教会 (JELC) に協力して、毎年ELCAから派遣される短期宣教師 (J3) の来日後の研修支援を行っています。2020年以降、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、短期宣教師の派遣事業が中断していましたが、この春から日本への入国制限や規制が徐々に解除されてきたこともあり、4月に久しぶりの短期宣教師が来日しました。ローラ・スレザクさんとヴォラ・ラナイヴォソンさんです。待ちに待ったこの2人の短期宣教師について、質問形式でご紹介いたします。



ローラ・スレザク (Laura Slezak)
米テキサス州出身。熊本市の学校法人九州学院にて英語教師として2年間赴任予定。



ヴォラ・ラナイヴォソン (Vola Ranaivoson)
マダガスカル出身。東京の日本福音ルーテル本郷教会にて英語教師と教会奉仕者として2年間赴任予定。

Q1. 短期宣教師 (J3) として奉仕するきっかけ・理由を教えてください。

ローラ・スレザク: 私は新型コロナウイルスの感染拡大によって将来の計画の変更を余儀なくされました。先の見えない世の中で、次に何をしたいかを再検討しなければならなかったのです。そんな中で、不思議なことに私は、先行きが不透明だった日本への短期宣教師 (J3) という道を選びました。海外に移住したいという思いもありました。アメリカでは、外国人に英語を教えた経験もあり、とても楽しかったことも影響しています。元短期宣教師の友人に話を聞くと、教会や世界との関わり方を理解する上で、日本での生活はとても有意義だったと話してくれました。私自身の経験が、日本でどのようなものになるか、どのように影響するかは分かりませんが、とても興味深い経験ができるのではないかと思います。私は元チャプレンとして、人々がどのように考え、人生に意味を見出すのかに興味があり、日本で学べることは何でも学びたいと思っています。

ヴォラ・ラナイヴォソン: 私は高校と大学で日本人のルームメイトや友人がいま

した。友人を通して日本や日本文化について興味を持ち、知ることができました。そのようなことから、ずっと日本に行ってみたいと思っていました。今回、短期宣教師として働けることになり、日本について探求できることを大変嬉しく思っています。しかし、それ以上に、主イエスの福音が私たちの生活のあらゆる側面に語りかけ、クリスチャンがどのように地域社会の全体的な変革の働きに加わることができるのかについて、非常に関心があります。私はJ3プログラムが、その長い歴史の中で、単に生徒の皆さんが英語を学ぶのを助けるだけではなく、福音によって人々に寄り添い、働きかけてきたのだと聞いた時に、このプログラムに加わりたと思いました。

Q2 もし、J3として奉仕できなくなっていたら、何をしていましたか？

ローラ: 私は、日本へ行くこと以外の考えはありませんでした。日本での奉仕がダメになった時の保険もかけていませんでした。日本での生活のために私は学び、準備しました。それくらい日本で働きたかったのです。もし、短期宣教師の夢が漸たれたとしたら、チャプレンとし

て働くことを再検討したり、海外で別の職を探したりしていたかもしれません。学生時代には、海外に2度住んだことがあるので、違う国で何か別のことに挑戦していたかもしれませんね。

ヴォラ: おそらく、ソーシャルワークの修士号を取得するために勉強していたと思います。

Q3. 日本で絶対にやってみたいことはなんですか？

ローラ: 日本で一番やりたいことを決めるのは難しいです。最初の数週間は、日本語の勉強に全力を注ぎました。また、ハイキングや自然の中に身を置くことがとても好きなので、日本にいる間に郊外にも行ってみたいと思っています。日本人の友達を作り、私の限られた日本語以外でもコミュニケーションが取れるようになりたいです。日常生活で出会う人がほとんど英語を話さないで、帰国する前にもっと周りの人と仲良くなりたいたと思っています。

ヴォラ: やりたいことがたくさんあるので、ひとつに絞るのは難しいのですが、あえて選ぶとしたら、富士山に登ることと京都に行くことです。また、できるだけたくさんの日本食を試すこと（そして料理の仕方を学ぶこと）もやってみたいです。

2人の日本への思い、宣教師としての覚悟が伝わってくるような回答でした。日本での2人の活躍と健康が守られるようにお祈りいただければ幸いです。

ブログも更新中

本紙には載せきれない、JELAの活動に関する最新の情報を、「JELAニュースブログ」を通じて随時発信しています。

JELA ブログ



jelanews.blogspot.com

JELAのホームページ (jela.or.jp) でも最新記事をご覧ください。

「ウクライナの平和のために祈る会」 33人が現地の苦境を学び、心合わせる

4月25日、JELAミッションセンターで「ウクライナの平和のために祈る会」が開催されました。オンライン事前予約の定員30名をやや上回り、33名の参加者とともに、今回のウクライナ侵攻によって苦しみの中にある、あらゆる立場にある人々に思いを馳せ、平和への祈りを捧げる時間を持ちました。

2022年2月24日のロシアの軍事侵攻によって激化したロシア・ウクライナ紛争は、数か月が経過した本稿執筆時の現在も、解決の糸口が見えない状況が続いています。日本に入国した避難民の人数も1,000人を超えたことが報道されました(5月21日付共同通信)。この紛争は、ユーラシア大陸のはるか彼方で困難に苦しむ人々の存在を身近なものとし、多くの人の祈りを行動に変えた出来事でした。

「ウクライナの平和を祈る会」の前半では、ウクライナ国境や国内に実際に足を運んで現地の様子を視察した、イタリアのミラノ賛美教会の内村伸之牧師の語る現地支援の必要性について耳を傾ける時間を持ちました。空爆の危険の中、車だけでなく徒歩や自転車でも何日もかけて避難してきた人々、明日何があるか分からないので現金を高価な車に換えたり、家じゅうで一番高価な衣類のみを厳選して身につけたりして避難してきた人々(「もしこの人たちにミラノで会ったら、きっと避難民だとは思わないだろう」という内村牧師の言葉がありました)、子どもたちに「遠出をするゲーム

をしよう」という優しい嘘をついて怖がらせないように避難する人々、避難所に連れていくことが出来ず泣く泣く置き去りにせざるを得なかったペットたち……。日本国内の報道ではあまり耳にすることのない興味深い報告やスライドショーから多くの情報を得て、会場に集まった人々は具体的に祈るためにより多くを知り、想像できることの大切さを共有しました。



ウクライナ支援の現状について話す内村牧師

会の後半では、日本におけるパストラル・ハープの第一人者でもあるキャロル・サック宣教師が、テゼの楽曲を用いながら、参加者の心をウクライナの平和のための祈りへと導きました。ハープの弦の音色とサック宣教師の柔らかな歌声だけが流れる空間で、内村牧師を通して知り得たウクライナの人々の必要や支援の方法を心に思い浮かべながら、参加者の一人一人が神の前に静まり、心を一つにして祈る時間となりました。

ウクライナと国境を接するルーマニア、ハンガリー、ポーランドなどの国々では、現地のプロテスタント教会がチームを組んで、物資の支援をはじめとする避難民の受け入れに尽力しています。ウ

クライナ国内にあっても、カトリック教会だけでなくロシア正教の教会も参加して支援活動を行うなど、教派、宗派を超えた支援活動を展開しているそうです。紛争の長期化が予想されるなか、残念なことに、特に日本の世論にはすでに「支援疲れ」などの言葉も出始めています。社会としての隣人愛の実践にいかにか困難な世の中であるかを表しています。参加者からの当日の感想には、「ユニセフなどプロの支援団体を身体に例えて大動脈とするならば、私たちや私たちの活動を支援する団体は、毛細血管」という内村牧師の表現が印象に残った、というものもありました。JELAの働きはこの毛細血管として身体の隅々に健康維持に必要な血液、栄養を届けることが使命であることにも気づかされる言葉でした。

JELAはこれからも毛細血管の役割をウクライナの支援という文脈でも取り組めるよう、情報を集め、発信してまいります。皆さまのお祈りとご支援を宜しくお願いいたします。

「ウクライナの平和のために祈る会」の動画は、YouTubeのJELA公式チャンネル(下記参照)からもご覧いただけます。ぜひご視聴ください。



ハープによる祈りの会を導くサック宣教師(左)

キャロル・サック宣教師の動画 「詩編との出会い」を順次公開します！

JELAでは新型コロナウイルス(COVID-19)感染症の感染拡大を受けて、この時代にこそ祈りや癒やしが必要であると感じ、リラ・プレカリア(祈りのたて琴)研修講座のディレクターであるキャロル・サック宣教師とともに「詩編との出会い(全3部)」というプログラムの動画を撮影して公開することにしました。

2月25日にプロの撮影クルーによる動画

の撮影をJELAミッションセンターホールで実施しました。その後、撮影動画の編集作業や日本語字幕の作成などを行い、いよいよ今夏に第一部からJELAのYouTubeチャンネル(右記参照)で公開してまいります。

JELAのYouTubeチャンネルをご覧ください。またチャンネル登録もよろしくお願いいたします。

一般財団法人JELA
公式YouTubeチャンネル

YouTubeで検索

JELA 財団

または

QRコードを読み込み



第16回 川柳ひろば 入選句発表!

次の3句が選ばれました（柏木哲夫選）。

柳名「とんちゃん」さんが最優秀句に選ばれました。健康や老後を扱ったユーモアあふれる作品が多く寄せられました。

入選した皆さん、おめでとうございます！



柏木哲夫氏

<最優秀句>

動かない 動かさないから 動けない
(とんちゃん)

<優秀句>

それぞれの理屈で生きて 骨となる
(速水正仁)

オンライン 頭は時々 オフライン
(うな太郎)

以下のような佳作もありました（川柳ひろば管理人選、柳名略）。

- ☆ 電話聞く ただそれだけの 親孝行
- ☆ 隣人（となりびと） 聞こえた歌で 世代知る
- ☆ 財産は もめないように 使い切る
- ☆ 冷房を 消して安堵の 午前二時

「川柳ひろば」では作品を随時募集しています！

件名に「川柳ひろば」とご明記のうえ、JELA事務局へEメール（jela@jela.or.jp）または郵便でご投句ください。本名での応募を希望されない方は、柳名（ペンネーム）を必ずご明記ください。皆様の作品をお待ちしております。（川柳ひろば管理人 奈良部 慎平）

支援者一覧

(2022年2月1日～5月31日)

(順不同・敬称略)

青木孝士/安藤裕三/安藤淑子/飯島喜久江/池田哲也/市原周子/市吉伸行/井藤育子/島宗正見/岩切華代/後田富久子/江崎啓子/大石敏和/大塚眞佐子/大嶺愛持・裸覇武・十六夜/OKURA YOSHIHIKO /鐘ヶ江和馬/小島拓人/古庄理世/小松由美/小丸吉展/佐野友美/杉山美紀子/鈴木米子/聖望学園マカビ・カ/高橋要子/辻裕子/中山純郎/野上きよみ/野口久志/濱田良枝/藤井たかね/藤井禮子/古川文江/古屋四朗/保坂和子/前川隆一/松岡俊一郎/光延和賀子/南谷なほみ/宮原信孝/森保宏/安田やまと/山口敏子/山口初子/山田美美子/山本了/古見憲明/榎三牧建設工業/JELC玉名教会

ご支援ありがとうございます。

匿名をご希望の場合は、ご送金の際にお知らせ下さい。

Follow us!



@jela.workcamp

@jelamission

@jelamission

@431dlnf

編集後記

JELAの国内初ワークキャンプの候補地として栃木県那須塩原市のアジア学院を視察したとき、テーマとなるのは聖書の創世記1章だろうと思いました。農業専門学校であるアジア学院で、土に触れるボランティアをしながら、自然の法則の中に創造主である神の美しさ、人間への愛に出会うことができると考えたからです。「あなたの若い日に、あなたの創造主を覚えよ」と聖書にあります。それは、自分が、世界が、どのように始まり、どこに行くのかを知ることが、人の人生観、世界観、歴史観を変えるからです。キャンプに参加する若い世代が、「神が天と地を創造した」という聞き捨てならない一言に立ち止まり、驚愕し、真実に向き合う勇気を持つ、そんなキャンプになればよいと祈り、願いながら、まさに今、この号の編集の背後でキャンプの準備が進められています。神に、仲間、人生の師に出会う夏を若者たちが経験してくれたら、これに勝る喜びはありません。（渡辺薫）

JELAを継続的に支える

JELAサポーター になりませんか？

JELAの公益活動は、皆様の寄付金により支えられています。「世界の子ども支援」「難民支援」「奉仕者育成」の3事業を柱とするJELAの働きにご賛同いただける方は、ぜひご寄付をお願いいたします。

JELAでは、クレジットカードを使って継続的にJELAをご支援いただける「JELAサポーター」プログラムをご用意しております。年1,000円からの一定額が自動で定期的に決済され、JELAの公益事業のためのご寄付となります。ホームページから簡単にお申し込みいただけます。

詳しくは で検索



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

JELAは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

SDGsは、2015年に国連サミットで採択された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。

JELAの活動に
ご支援を!

JELAのホームページからは、以下の種類のクレジットカードでご寄付いただけます。下記の銀行口座へのお振り込みも可能です。



〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-20-26
Tel: 03-3447-1521 Fax: 03-3447-1523
https://www.jela.or.jp/ jela@jela.or.jp

寄付金のご送金先:
ゆうちょ銀行 口座番号: 00140-0-669206 (加入者名: 一般財団法人JELA)
三井住友銀行 飯田橋支店 普通2896506 (口座名義: イッパソウイタンホウジエ)